



3.11 東日本大震災は、山元町から多くを奪いました。
それから5年半 ...

あたらしい駅や復興住宅の風景を目にし、津波にさらわれたままに広がる浜辺を歩く時、山元はいったいどんな町だったのだろうか、どんな歴史を歩んできたのだろうか。それを知りたいという思いが、今まで以上にこみ上げてきます。

震災は多くを奪いましたが、一方で「山元町」のことを教えてくれました。

一つは、東日本大震災復興事業に伴う発掘調査で分かった、古代の山元の姿です。なかでも、合戦原の横穴墓群では、東北地方では珍しい線刻壁画がみつきり、注目を集めました。

もう一つは、文化庁の要請で日本建築学会や日本建築家協会などの「文化財ドクター派遣事業」によって調査され、修復助言がなされた、「大條家ゆかりの茶室」です。

今回は、この二つのすごい歴史、古代、特に7世紀の合戦原遺跡と線刻壁画、そして江戸の大條家ゆかりの茶室について、それぞれの専門の先生をお招きして、お話を伺います。

日程 11月19日（土） 13：00～15：00

場所 山元町合戦原学堂
（宮城県亘理郡山元町高瀬字合戦原30-5）

定員 70名

参加費 500円（抹茶、お菓子付）

【講師】

佐古和枝さん：関西外国語大学教授（考古学）

永井康雄さん：山形大学教授（建築史学）

【コーディネーター】

清水ますみさん

学ぼう。山元町のすごい歴史

古代の線刻壁画と 江戸の大條家ゆかりの茶室

